

46-1 防災・災害・BCP

アクションカード使用による災害訓練の効果

平成横浜病院健診センター 看護部

はやし としえ

○林 年枝 (看護師), 渡辺 眞由美, 三宅 千穂, 前原 愛実

背景

健診センターで火災報知機の誤作動があり、職員から迅速な行動が出来ず不安の声が聞かれた。自主的に防災訓練を実施した。

結果、訓練に参加した職員と、非参加職員の間に行動の差があるのではないかと考え災害時に的確な行動がとれるか疑問に思った。

目的

アクションカードを作成・使用することで、行動が明確化し他職種間で連携した行動と統一した対応ができる。災害時に対する職員の意識・知識の向上を図る

対象

健診センター職員

方法

2019年12月～2020年2月アクションカード作成・使用した実動訓練

訓練前後に知識確認テストの実施

結果

訓練前に各フロアの避難経路・消火器などの設置場所を再確認した。また、アクションカードを使用し避難訓練を実施したことで行動の明確化が図れた。

訓練実施後の意見交換で、疑問点や不明点など積極的な意見が多く出た。

テストの結果 実施前平均48点、実施後77点に上昇した。

考察・結論

災害時は、的確な行動を短時間で行うことが最も優先される。アクションカードの使用は、視覚によるわかりやすさと、カードとして物理的に存在することで、災害初期の混乱している状況の中でも落ち着いて行動する一助になると考えられる。実際に訓練を繰り返し行ったことで職員の防災に対する意識の変化、知識の向上がみられた。このことから、アクションカードを使用した訓練に一定の効果があった。更に行動を明確化したことで、他職種間で連携し対応することができたと考えられる。そのことは、当センターのような各フロアに分かれ、他職種がいる環境において有効だった。

今後も定期的に訓練を積み重ね、変化する状況に対応するアクションカードの見直しを行う事で災害に備えることができる。

46-2 防災・災害・BCP

当院の防災対策に対する職員の意識調査結果の分析と対応

保岡クリニック 論田病院

なかむら ひろゆき

○中村 宥之(理学療法士), 戎谷 茉莉奈, 谷 一美, 蓮林 和幸, 小倉 貴子, 安藤 吉宏, 宮川 智嗣, 國見 佳恵, 笠井 圭子, 保岡 正治

〈はじめに〉

わが県では南海トラフ地震が近々起こると予想されている。小規模ではあるが昨年当院で、漏水工事による断水が数日間起こり、様々な対応が求められる場面があった。それは当院の防災対策についての重要性を職員一同改めて考えるきっかけとなった。

〈目的〉

当院職員に対して防災について意識調査を行い、現在の取り組みについての改善点を協議した。

〈内容〉

1. 職員の防災に対する意識調査と防災備品の把握状況についてのアンケート結果の分析
2. 当院での防災に対する取り組みについての改善点を議論

〈結果〉

防災に対する意識調査の結果、過半数の職員が災害時の自分の役割が曖昧であったことが分かった。またアンケートから、所属している部署の防災備品の把握割合は高かったが、他部署に対する把握割合は低い結果であった。次に改善のためのディスカッションで、防災訓練の内容が恒常化しているという意見があった。その理由の一つとして防災訓練の実施予定日が毎回同じ曜日になってしまう為、参加者が限定されていることが挙げられた。

〈考察・まとめ〉

初回のアンケートでは、備品配置の把握割合は全体で55%と分かったため、全職員がラウンドを行った。1か月後再度アンケート調査を行った結果、77%に上がっていた。全職員が配置場所を再認識し、防災意識の向上に繋がったと考える。

また、防災訓練の内容に不確定要素を取り入れる目的で、災害の内容等は当日ランダムに選択することが決定され、担当者も新入職員が主となり取り組んだ。結果、以前の防災訓練より約5分タイムロスがあることが判明し、以前の固定化されている訓練では災害時の対応が不十分であることを見出した。

〈今後の課題〉

今後の課題として、役割を明確にするための行動リストの作成や連絡網のシステムの見直し、災害時安否確認サービスの導入、当院関連施設や地域とも連携した訓練等の検討をしていく。